南大和グループ広報誌 | Minami Yamato Group Public Relations Magazine TAKE FREE

みなみやまと

2021.1
73

特集 南大和病院　新年にあたり

病院長 茅野 修史 ごあいさつ

表紙のひと
医療法人　新都市医療研究会「君津」会
池田 重雄 理事長（左）　茅野 修史 病院長（右）

南大和病院　新年にあたり
病院長　茅野 修史　ごあいさつ

MINAMIYAMA
●診療科目
外科・内科・消化器外科・消化器内科・呼
呼吸器内科・糖尿病内科・循環器内科・整
肛門外科・血管外科・脳神経外科・乳
人工透析内科・腎臓内科・泌尿器科・形
リウマチ科・アレルギー科・リハビリテーシ
耳鼻咽喉科・神経内科・眼科・放射線科・麻酔科・心臓
●診療時間
午前　9:00～12:00
午後　14:00～16:00
夜間　16:00～18:00(土曜夜間休診)
●休 診 日
日曜、祝日及び12月30日～1月3日
但し、急患の方はいつでもお受けいたしま
医療法人新都市医療研究会「君津」会
南大和病院

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の流行により、世の中が大きく変わりました。

世界中のすべての人々に影響が及んでいます。新型コロナウイルス感染症の最も厄介な点は、感染していても症状が出ず、知らないうちに人にうつしてしまうことがある点です。そのために人にうつすのも、人からうつされるのも予防しにくいのです。よって、お互いが自分は感染者であり、相手も感染者であると考えて行動する必要があるのです。そのために、三密を避ける、マスクをする、手洗いをすることが推奨されています。

つまり人と関わらなければ、感染するリスクは限りなく小さくすることができます。外出しない、直接人と話をしない、食事は保存食を食べ続けるなど社会と隔絶した生活する予防策は取れます。しかし、そのようにして人は生きていくことができるのでしょうか。

では外出しなければ、病気の危険がないのでしょうか。

世の中の病気は新型コロナ感染症だけではありません。糖尿病や腎臓病などの生活習慣病、胃がん・大腸がん・乳がん・肺がんなどのがんは静かに進行します。新型コロナウイルスに感染することを恐れて病院にいかず健診も受けないと、気がついた時は手遅れになるという可能性があります。また、リハビリをしないと足腰が弱り、血行のバランスが崩れ、飲み込む力が弱くなり、肺炎になったり認知症が進行することもあります。

最近はオンライン診療（※）というものがニュースで盛んに取り上げられています。しかし、診療する側からすると、非常に情報量が限られてしまい難しいものです。患者さんから得る情報は、目で見るだけでなく、音を聞き、匂いを嗅ぎ、手で触り、五感をフル活用するものです（味覚は除きます）。また、経験のある医者は患者の「いつもと違う感じ」をとても大切にします。病院に来られていれば、わずかにしんどそうだから脈を取ってみましょう、肺の音を聞いてみましょう、血液検査をしてみましょうとなるのですが、オンラインだと医師も患者も少し躊躇してしまうのです。よってオンライン診療は、通常診療ととって変わるものではなく、別物だと考えた方がいいのです。一部の疾患では、会話と視覚だけで診察でき便利ではあるかもしれません。ただ、本流にはなり得ないでしょう。検査もできませんし、内服薬を処方する以外の治療が難しいからです。

新型コロナウイルスへの感染を恐れるあまり、他の病気への対応が疎かになる危険を常に考える必要があるでしょう。

新型コロナウイルス感染症を取り巻く環境も変わってきました。

昨年の春の流行時には、感染しているかどうか判断することもできませんでした。PCR検査もなかなか受けられず、熱が出たり咳が出ても、新型コロナのせいなのか、他の病気か診断できませんでした。そのような状態の患者をすべて新型コロナ患者とみなして対処しようとすると、手袋やマスクがいくらあっても足りません。しかし現在は、感度は100%ではありませんが、迅速にPCR検査などができるようになっています。また、人にうつさないための入院施設やホテルが用意されてきました。マスクなどの予防装備も流通してきました。

さらに治療法も大分確立されてきました。新型コロナ肺炎の特効薬ではありませんが、ステロイドなど既存の薬が効果的であるとわかってきています。さらにワクチンもあと一歩のところまできました。

新型コロナウイルス感染症はもはや、対処法のわからない未知の感染症ではありません。感染者数が急増すると、入院治療施設が対応できず厄介ではありますが、予防も治療もある程度可能な感染症になっているのです。

南大和病院は40年間地域の皆さまと共にありました。

南大和グループは、前理事長の池田貞雄が1980年に南大和病院を開設しました。「いつでも、どこでも、誰でも望みうる医療を提供すること」を目的とし、時代に合わせて発展してきました。そのころは日本は若く、経済発展をして人口も増加していました。そのため、急な交通量の増加や工事による外傷や大気汚染による喘息や胃潰瘍が多かったようです。近年では、高齢化によるがんや糖尿病や腎臓病などの生活習慣病が増えています。また介護が必要な方が増えています。対応するために老人保健施設も設立しました。

今後は「訪問」に更に力を入れていきます。

さらに高齢化が進み、高齢者のひとり暮らしや、老夫婦でなんとか介護していることが普通になってきました。家族がいても離れて暮らしていることが多く、通院するにも移動が大変であったり、少しの介護があれば家にいられるのに、独居だから難しいなどの問題が出てきています。その「少しのこと」を埋めるために、今までは病院への無料送迎をしてきましたが、今後は訪問診療、訪問看護、訪問リハビリに今まで以上に力を入れていきます。

昨年の10月より、特に訪問診療を強化しています。内科だけではなく、外科や整形外科、形成外科などは直接訪問できますし、泌尿器科や眼科、耳鼻科、麻酔科は病院の専門医と密に連携をとります。多くの診療科を持つ病院ならではの対処をします。さらに緩和や終末期医療に力を入れて、すみ慣れた自宅でできるだけ過ごしたいが、本当につらくなったら入院したい、でもまた楽になったら自宅に戻りたいなど、色々な希望にお答えします。自宅で最期を遂げたいと思っても、体調や介護者の状況は変わるものですので、その都度一番いい選択ができるようにします。そうして、本人にも介護者にも頼られる存在でありたいと思います。

コロナに充分対策を取りつつ、地域での役割を果たしていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

茅野修史

（※）オンライン診療：直接対面しないで、パソコンやスマートフォンなどを通し、診療すること。

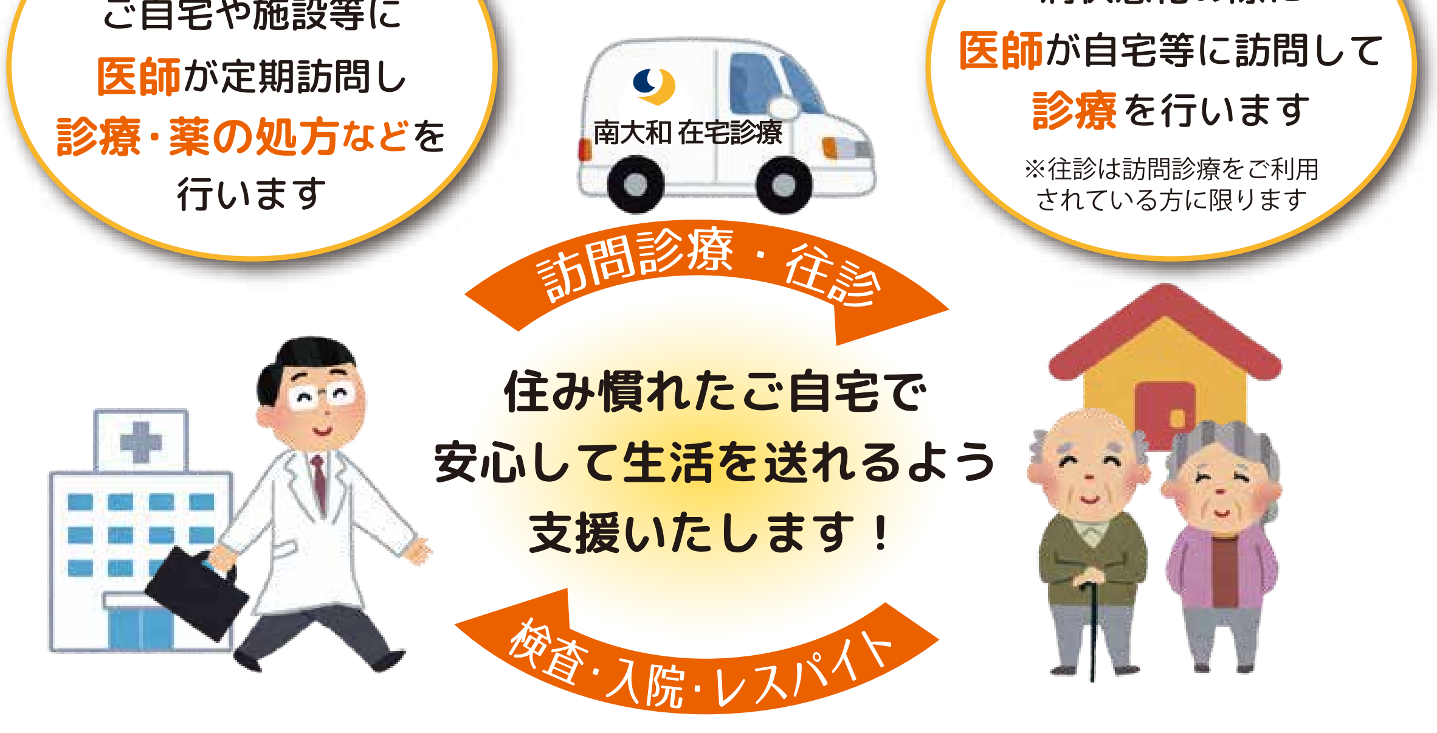
南大和グループの
在宅診療

在宅診療とは
病気や障害で定期的な通院が困難な患者さんに対して、
医師がご自宅や施設に訪問して行う医療です。
「訪問診療」と「往診」を組み合わせて患者さんの療養をサポートします。

南大和グループでは
昨年10月より在宅診療体制を強化し、
これまで以上に皆様の在宅療養を手厚くサポートできるようになりました。
当グループの在宅診療について　わかりやすくご紹介いたします。

訪問診療は
ご自宅や施設等に
医師が定期訪問し
診療・薬の処方などを
行います

※ **往診**は
病状悪化の際に
医師が自宅等に訪問して
診療を行います
※往診は訪問診療をご利用されている方に限ります


南大和 在宅診療
訪問診療・往診
住み慣れたご自宅で
安心して生活を送れるよう
支援いたします！
検査・入院・レスパイト

在宅で可能な処置

● 胃瘻（いろう）　● 経鼻経管栄養　● 在宅自己注射　● 在宅酸素療法　● 膀胱留置カテーテル　● 褥瘡（じょくそう）管理
● 足壊疽（あしえそ）　● 緩和ケア　● インフルエンザワクチン接種　● 肺炎球菌ワクチン接種 など

特徴その1

専門家の医師が多数在籍

内科だけではなく、褥瘡（じょくそう）・足壊疽（あしえそ）・緩和ケア・整形外科など経験豊富な専門の医師が在籍しており、主治医が対応困難な疾患でも他の医師のバックアップによりサポートいたします。病状に応じてひとりの患者さんに対して数名の医師が療養をサポートいたします。

茅野 修史
Kayano Shuji
南大和病院 院長
＜形成外科＞

大津 正之
Otsu Masayuki
南大和クリニック院長
＜内科＞

髙川 亮
Takagawa Ryo
南大和病院
消化器外科部長
＜消化器外科＞

深原 俊明
Fukahara Toshiaki
南大和病院 副院長
＜消化器外科＞

田宮 菜奈子
Tamiya Nanako
＜内科＞

甲斐 一郎
Kai Ichiro
＜内科＞

田中 健之
Tanaka takeyuki
＜整形外科＞

神尾 浩司
Kamio Koji
＜消化器外科＞

特徴その2

24時間365日 安心サポート

患者さんに安心して在宅で療養していただくために、24時間365日、夜間・休日も対応しております。状況に応じて往診、救急搬送の判断をさせていただき、救急搬送は南大和病院で対応いたします。病院・訪問サービスとの連携により、患者さんの情報を共有しているため入退院もスムーズにできます。

ご家族の休息にレスパイト入院の調整も行っております。（レスパイトとは「家族の休息・息抜き・一時休止」という意味です。）

特徴その3

病院によるバックアップ

南大和グループは南大和病院を中心として医療・介護を地域の皆様に提供しております。グループ内での連携も容易にでき、患者さんの生活を万全の体制でサポートいたします。

また、終末期においてもご自宅なのか病院なのか、最後の時まで迷いながら選択ができます。

【在宅診療についてのお問い合わせ】
在宅診療担当までご連絡ください。
在宅診療 専用電話
046（401）2200
担当：深澤・中根

部署紹介：　南大和グループのさまざまな仕事をご紹介いたします。

医師事務作業補助職

医師事務作業補助職は医師の負担を軽減し、医療の機会損失なく良質な医療が提供することができるよう設置されたポジションであり、医療（ドクターズ）クラークとも呼ばれています。

海外における歴史は長く1920年代にアメリカで設立されました。1970年代には業務内容も確立し、診療において大きな役目を担っております。日本では2000年頃から先駆的な病院で取り組みが開始され、2008年の診療報酬改正によって正式に定義されました。

導入時2008年での配置数は730件だったものの、2019年時点では約3千件の施設に配置され、その従業者は約4万人と推定されます。

当院では医師のスケジュールの調整や資料作成などを行っている3名の医師事務がおり、計5名で医師のサポートを行っております。書類担当は医療文書作成の補助（主に生命保険の診断書、難病や身障の申請書、健康診断書）、介護保険の主治医意見書や訪問看護指示書の代行作成などを行っております。さらに診療記録などの代行入力なども医師の指示のもと行っており、専門的な知識が必要となってきます。

昨年末までは医事部の書類係が行っておりましたが、現在担当として2人の医師事務が担当させて頂いております。患者様とは書類の出来上がりのご連絡やご確認の連絡をさせていただく事がありますのでご存知の方もいらっしゃるかと思います。地域連携室と同じ事務室に設置されているため、表示された番号におかけ直し頂くと地域連携室に繋がります。その際は、「医師事務」または「書類係」にとお伝え下さるようお願いいたします。

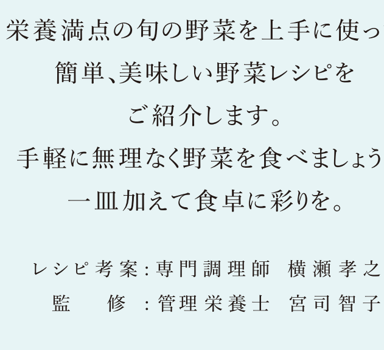
介護保険の申請では問診票をもとに指示書を作成しておりますので、定期受診がない患者様におかれましては問診票の郵送もしておりますので今後どのようなサービスを受けられたいかを詳細にお書きいただけましたら幸いです。

訪問看護指示書に関しては地域包括センターやケアマネージャーの方々とも連絡を取り合いながら業務を遂行しております。

専門性の高い書類につきましては、お時間を頂く場合もございますが、なるべく早く患者様のお手元に届くよう努力しておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

南大和病院 栄養部より

おすすめ！野菜レシピ

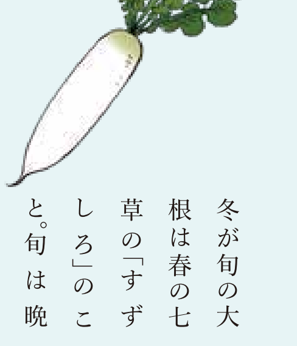


栄養満点の旬の野菜を上手に使った
簡単、美味しい野菜レシピを
ご紹介します。
手軽に無理なく野菜を食べましょう。
一皿加えて食卓に彩りを。

レシピ考案：専門調理師　横瀬孝之
監　　修：管理栄養士　宮司智子

冬の食材

「だいこん」



冬が旬の大根は春の七草の「すずしろ」のこと。旬は晩秋～初冬。

大根の辛みには胃液の分泌を高め消化を促す働きがあるほか、胃腸の働きを助ける数種類の消化酵素も含まれます。血栓の防止やがん予防が報告されるなどカラダに嬉しい野菜です。

【美味しい大根の選び方】

真っ直ぐでずっしりと重みがあり、色が白くてツヤとハリがあるものがよいでしょう。また、ひげ根はできるだけ少ないものを選びましょう。

冷蔵庫では、乾燥しないように新聞紙に包むと1～2週間は保存できます。使い切れない時は、おろして冷凍しておくと使うときに便利です。

和：大根の味噌煮　…最後に味噌を加える事で味噌の風味が口の中に広がります。

作り方（2人分）
①大根は5cm程度、人参は2cm程度をそれぞれいちょう切りにする。こんにゃく40gは一口大に切り湯通しする。
②鍋にだし汁200mlを沸かし、酒小さじ1を加え、①を加えて弱火で10分程度煮る。
③野菜が柔らかくなったら調味料（味噌小さじ2、醤油・みりん各小さじ1）を加え、弱火で10分煮る。
④器に盛り付け、小口切りにしたねぎを散らす。

洋：大根のクリーム煮　…和食で使用するイメージのある大根ですが、洋食にもよく合います。市販のルーを使う事でお手軽に。

作り方（2人分）
①大根5cm程度、人参2cm程度をそれぞれ2cm大の乱切り、たまねぎ1/4個は一口大に切る。
②鍋に油小さじ1を熱し、①と鶏小間肉50gを加えて炒める。
③水カップ300ccを入れて煮込み、あくを取り、一旦火を止める。
④市販のクリームシチューの素ふたかけを加え溶かし、再度とろみがつくまで弱火で煮る。

中：大根のマーボー煮　…甘辛な味付けにごはんがすすみます。どんぶりにしてもOK。

作り方（2人分）
①大根100gを1.5cm大の角切りにする。
②鍋にごま油小さじ1を熱し、みじんぎりにしたにんにく、しょうが各ひとかけと豆板醤少々を入れて炒める。
③豚挽き肉60gと①の大根をいれ、鶏ガラスープ200mlを加え煮る。
④大根に火が通ったら調味料（砂糖小さじ1、醤油小さじ1、テンメンジャン・塩・こしょう各少々）を入れてさらに煮る。
⑤水溶き片栗粉でとろみをつけ、小ネギを散らす。

がん検診 まだ間に合います！

がん治療は『早期発見・早期治療』が基本です。南大和病院では肺・胃・大腸・乳房の各がん検診が受けられます。お住いの自治体・年齢によって助成内容は異なりますが、2020年度の検診は大和市にお住いの方は2月末まで、綾瀬市にお住いの方は3月末まで受診可能となっております。期間終了間際は非常に混み合いますので、お早めのご受診をおすすめ致します。

【当院の胃がん検診について】

胃がん検診は「X線検査（バリウム）」または「内視鏡検査」2つの方法がございます。

当院の特色のひとつに『内視鏡センター』がございます。内視鏡治療の経験豊富な医師が月～土曜まで毎日検査を行っており、年間の胃内視鏡実施件数は3700件を超えております。安心して検査をお受けください。

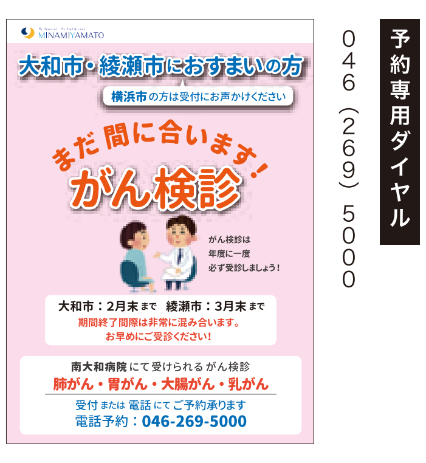
内視鏡センターでは「苦痛の少ない内視鏡」をモットーにしております。内視鏡検査を受けたことがない方も、一度受けてみてはいかがでしょうか。

また、内視鏡センターでは新型コロナウイルス感染症対策としてウイルスを減少させる効果が認められたシャープのプラズマクラスターの最上位機種を導入しております。その他にも、患者さんが安心して検査を受けられるよう検査時に小さな穴を開けたマスクを装着していただき、その穴から内視鏡を挿入するなど工夫をしております。

【当院の乳がん検診について】

当院では毎週火・木曜に女性医師による乳腺外来を行っております。また、検査も女性技師が行います。上級ピンクリボンアドバイザーも2名在籍しておりますので、何か気になることがございましたらお気軽にご相談ください。

予約専用ダイヤル
046（269）5000



MINAMIYAMATO
大和市・綾瀬市におすまいの方
横浜市の方は受付にお声がけください
まだ間に合います！
がん検診
がん検診は年度に一度必ず受診しましょう!
大和市：2月末まで　綾瀬市：3月末まで
期間終了間際は非常に混み合います。お早めにご受診ください!
南大和病院にて受けられるがん検診
肺がん・胃がん・大腸がん・乳がん
受付 または 電話 にてご予約承ります
電話予約：046-269-5000

公式動画チャンネル「みなみやまとチャンネル」ができました！

南大和グループでは、これまで定期的に地域の皆さんに気軽にご参加いただける市民講座を開催しておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により当面の開催は難しいとの判断で、それに替わるものとして南大和病院の公式動画チャンネルを開設いたしました！こちらのチャンネルでは、医療・介護福祉の豆知識や役立つ情報をお届けしていきます。

初回の動画では、3回にわたって当院管理栄養士の宮司が食事の大切さについてお話ししております。

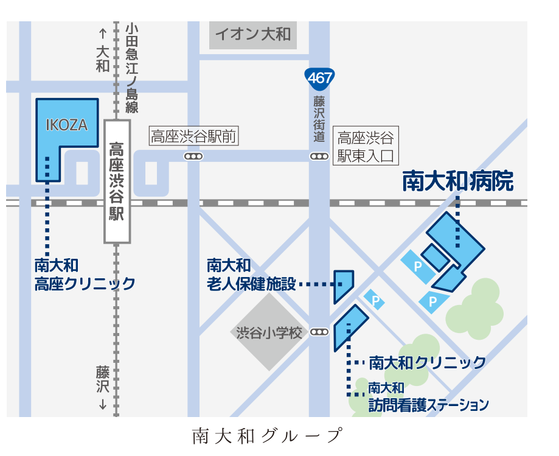
みなみやまとチャンネル
https://www.youtube.com/channel/UCPuFBrGPQ6a3N-rkXP4aC2w

MINAMIYAMATO
【1】
元気な体づくりのための食事

南大和グループ広報誌
みなみやまと
第73号 2021年1月1日 発行

発　行　者：南大和病院
発行責任者：南大和病院長　茅野修史
企画・編集：南大和病院　広報委員会

医療法人　新都市医療研究会「君津」会
南 大 和 病 院
〒242-0015 神奈川県大和市下和田1331-2
電話　046(269)2411（代表）
URL　http://www.minamiyamato-hosp.or.jp/



南大和グループ
南大和病院／南大和クリニック／南大和高座クリニック
南大和老人保健施設／南大和訪問看護ステーション